文芸欄

俳句

宝愛句らぶ（中央区）
鈍色の空に轟く雪起こし　和子
冬木立水辺の鳥はただ一羽　悦子
牡蠣鍋を囲む仲間に唄が出る　千枝子
ハイカーの賑はひ絶えて山眠る　道子
クレーン船釣り上げたのは牡蠣筏　恵子
今生の別れ忍ばせ賀状書く　丘
あつ飯に鰤の煮こごり溶けし朝　和志
牡蠣の店女将の夢は海を越え　哲男
黄落や六甲おろし山眠る　啓臣

梅の美会（兵庫区）
垂れ下る今にも折れる実南天　山口茂子
健やかに迎えし春の祝い酒　粟野富江
尖らせたエンピツ二本初日記　山田朝子
元日や長寿を謝しつ酌むひとり　藤井歌子

青葉クラブ（北区）
親の手を振り切り子らは雪を踏む　馬場みつえ
臘梅の薫れる庭や誰が住居　前川弘子
しわぶいて葛根湯服む気休めか　山本恒雄

高原ささゆり会（北区）
節分や鬼も仲間に卒寿われ　てる子
空澄みて秋の勝山山燃ゆる　南久美子
風花ゆく有明の衣纏われつ　松村二三枝
山装うゴンドラの行く寒霞渓　山下久一
冬ごもり等圧線の縞模様　若林節子

ひまわり句会（北区）
初日さす硯の海は平和なり　辻寿賀子
こぼれ種庭に広がる桜草　石井敏子

ひよどり台句会（北区）
秋の夜長話す相手は亡き夫よ　塩見光子
手みやげの鯛焼きかかえ小走りに　筒井豊子
日短か「お先に」言えずボランティア　中井光子
とりどりの色を野に置き秋深む　矢谷登美子

北斗句会（北区）
窯出しの兎並べて年の暮　脇坂有多子
幣の鈴頭垂れ聞く七五三　松本洋子
句敵を忍ぶ一句や初時雨　岸下庄二
波郷忌や句を語り合う友の逝く　藤井久美子
小康を得しとの便り秋晴るる　金行隆
孫文の墨書やはらか冬灯　久松礼子
ビル街を包む讃美歌降誕祭　黒田久江
路地奥に残る板塀花八ツ手　秋山弘之
スキップもなさぬ振袖七五三　川原正
串本の水天一碧石蕗の花　増田嗣夫

見山台新樹会（北区）
昔どさり今はパラリの年賀状　丸尾嘉子
老友の生きてる証年賀状　藤田和夫
雪催い高速バスの客６人　佐溝満喜子
えーいひとーつそーれ掛声除夜の鐘　高石勝行
賀状数枚アップデートの聞き手は右　貞永弘子
住み慣れし街又1年歳明ける　石本宏一
スタッドレス妻に逆らい雪を待つ　吉田勲

福寿草句会（須磨区）
裸婦像に真赤なケープ冬来る　林慎一
ランナーの熱気で飛ばす時雨雲　上原綾子
身にしむや戦力外の記事小さき　松下修二郎

多聞台ときわ会文芸部（垂水区）
霜の朝布団乾かす庭光る　中村佳代子
霜の朝息の白さに目覚めたり　大畑留理子
初霜や日射しの合い間光りあり　久下順司
霜の朝外出の猫が駆け戻り　山本雄二郎
霜焼けが弟の耳赤く染め　樋山隆夫
日輪のまぶしき朝や霜の庭　木村敏博

月が丘むつみ会（西区）
青天や夕日に映える紅葉樹　藤森勝子
お開きで襟たて帰路に寒月や　川上富範

◆個人
初夢は北斎の富士鷹茄子　（灘）福井悦子
イエスともノーとも言えず懐手　（灘）山上幸子
夫や子に会へる菩提寺初詣　（北）竹村良子
万両の色濃くなりて庭の隅　（北）山田キミ子
割烹着つけたるよりの師走妻　（須）高橋純子
頼久寺枯山水に冬紅葉　（須）福本和恵
立冬を過ぎて淋しき茜雲　（垂）大上昭敏
福は内卒寿の豆は食いかね　（垂）藤田恵子
爽かぜと旅する芒きどこまでも　（西）北野公昭
兎飼ふ朝の新聞読みもする　（西）小幡美沙子
ぽっかりとひとり歩きの散歩道　（西）芝田律子
冬の苔樹木の幹や薄化粧　（西）寺岡洋子
紅葉がり老人会やバス十五台　（西）濵頭ミノル

川柳

桂木ひふみ会（北区）
来生を信じ数多の悪は置き土産　京念久美子
感涙す勝てると信じドイツ戦　笹岡淑子
百歳までも生きた親です我もまた　杉尾悦子
僕は行く真実一路来生も　大和ケント

筑栄会（北区）
リース作りグルーガンで飾りつけ　三茶
疎開先ウサギを追いしときの声　かほう
初恋の人が出る夢内緒だよ　あきら
錦秋を求めてぶらり歩こうか　まり子
朝ドラの明日へつづきにトキメキを　まさこ

桃山台クラブ文芸部（垂水区）
初詣賽銭はずみ福願う　田畑美恵子
古希も末八十路もう其処令和の世　小高肇

◆個人
眠そうだそれでも年越ソバを作る母　（東）早川キミエ
ミンチにトロミ料理我が味方なり　（東）増田芳之
数独の埋めず進まず夜ふける　（灘）都倉知子
コロナ禍は友との電話生きがいぞ　（北）かんいち
諭吉去りしぶさわ来るもご円なし　（北）北野利一
スターバックス飲み方知らず見て暮らす　（北）宮内美栄子
干柿の障子の影にいやされて　（西）藤長文子

短歌

花山短歌会（北区）
左手を右手でマッサージしつつ思う今日の私の心を正す　船崎めり子
土筆摘みハカマをとりて調理して春のよろこび友らにわけむ　山田加壽代
ゆきやなぎ眞白き花の庭にゆれ風のかたちに枝のふくらむ　古林保子
雨降りて歩きに行けず家の中ぐるぐる回り歩いたつもり　礒元カヨ子
君からの思いもかけぬ贈り物朝の太極拳ブレスレット光る　清水恵子
リフォームせむ古き着物に袖通ししみじみ思う若き我が日を　木下いく子

◆個人
くり返す季節の移ろい哀しくもさあ新たなる年を生きよう　（灘）上田節子
凜とした冷たき朝の山仰ぎ空新しく輝けるなり　（中）水口敏子
木枯らしに吹き落とされたかりんの実まねのできないジャム茜色　（兵）大賀清子
冬空に白煙棚引く火葬場人の命の儚さ思う　（須）江口啓子
くるくると落葉のダンス風の歌とまった心共に躍りて　（北）箱守喜久子
終活はしないでおいてと子は眞顔目を通したい老母の人生　（北）眞木香代子
風が呼び雨戸が答へる言問ひか夜ながの寒波朝までつづく　（西）増田當代
ティーカップに具材を「ふり出し」湯をそそぎレンジで二分朝のみそ汁　（西）松浦妙子
岩岡で初めて姫路中学校卒業祖父を誇りに想う　（西）水澤清
紀州路へ恵方三社の初詣老人会の絆深めて　（西）吉野洋子

あとがき

今号も、広報紙「KOBE シニアクラブ」をお読みいただきありがとうございます！

３月に入り少しずつ気温も高くなって過ごしやすい日々になってきました。春が来たという感じですね。さて３月は、旧暦では「弥生」と呼ばれます。

「弥生」とは、いよいよ草木が生い茂るという意味だそうです。まさしく新緑が深まっていく時期に当たります。

市老連の活動も深まってくるそんな新年度にしたいものです。

とっておきの作品

【中央区】二宮新栄クラブ　あさとし

サンコウチョウ

ハチドリと花

「とっておきの作品」募集

会員の皆さまから、絵はがき＆色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せ下さい。

必要事項
①氏名（ふりがな）　②クラブ名　③題名
④郵便番号　⑤住所　⑥電話番号

※葉書サイズ（100mm × 148mm 以内）・色紙サイズ（242mm × 272mm 以内）でお願いします。それ以外は受付出来ません。

※作品は随時ご返却いたしますが、長期間お預かりする場合がありますのでご了承ください。

※作品は丁重に取り扱いますが、損傷については理由のいかんにかかわらず、一切の責任は負いません。

宛先 〒 650-0016 神戸市中央区橘通 3-4-1
KOBEシニアクラブ
「とっておきの作品」係